
恋ひ震ひ

布袋しぐれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋ひ震ひ

【Nコード】

N6796Y

【作者名】

布袋しぐれ

【あらすじ】

気がつけば、あなたが好きだった。

正直に言える、あえないならば、この感情。

後悔の念も、縛られる慕情にも似た、恋情も。

馬鹿、あなたの、馬鹿。

直向ひたむきに願うは、あなたの傍に留まること。

気にしていないはずだったのに、こんなはずじゃなかったのに。どうしてか分からない。ありもしない好意を求めて、目で追ってしまっ。

ありえない、こんな妄想じみた片思い、痛いだけだ。分かったつもりでいる頭に、苦しむ。分かったつもりで、納得した演技する胸の奥に叱咤する。なんで、そんなにかたくなに素直じゃないの。口からついて出る、関係のない話。こんな話してる場合じゃないのに早く伝えて。ほら、もう既に手遅れじゃない。

自らをかつこいいとまで称す、自信にあふれたあなたに。どこか憧れてたんじゃないかって。恋と勘違いしたんじゃないかって。

でも勘違いなんかじゃなくて。これはふたつの面を持った恋、以上の何ものでもなかった。嘘っぱち。馬鹿。私の、愚考。

あえない間の、自制しがたい感情は、うぬぼれのように我を苦しめ。食い潰す勢いで、この感情が身体を呑んで行く。嘘みたいだ、こんなに愛が苦しいなんて。

片思いも、いくつもしたし。恋愛なんて数え切れないのに。一目ぼれも、ただの日常的習慣でしかなくて。免疫もあつたはずなのに。どうして恋しくなるんだろう。欲しくなるんだろう。

でもきつと、欲しがって、欲しがって。その次は、もういらんないんじゃないかって。どこかでその答えを、求めていた。嘘みたいな感情。きつと一時だけだって。

でも写真を見るたびに、苦しみは増して。胸の高鳴りは、まるで乙女のように。ドクンドクンと。

冷たくされようが、どうなるうが。抗えない慕情。恋情は濃く、この身に染み渡っていき。どうしてこう、色を濃く残すのか。理解できない。理解したくない定理を、頭のどこかで半ば必死に解いて。そうよ、解きたくもないのに、解けるわけもない。

難しいほうへ、難しいほうへ。わざと思考をずらして、気まぐれに。

自信のない、私、まるで醜女しうめ。鏡なんて、あなたのために見たくなくて。比べられたくなくて。

自信のある、私、まるで情け人なさけびと。まるで売れ残りの女郎。安っぽい演技も、なんでも、もう、お手の物よ。

そうしても、あなたはきつと子供扱い。

まるで親戚の子を見るかのような、深い慈愛に満ちた目で。

馬鹿、欲しいのはそんなもんじゃない。もっと気持ちの悪いくらい、欲丸出しの。私が欲しいのは、善意の視線じゃなくて、もっと濃い刺激を含む視線。大丈夫、もう失うものなどないし、あなたに何かを奪われる心配など、これっぽっちもしていないから。

馬鹿、こんな感情を抱くなんて思ってなかった。

馬鹿、なんでこうするの。冷たくされても、この思いが変わらないことに、気付いているでしょう。策士なの、なんなの。あなたも同じ気持ちなら、思い一層、奪い去ってよ。

恋するゆえの、苦しみなら、もう十分だから。

あなたを思い、なお、震え。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6796y/>

恋ひ震ひ

2011年11月20日18時38分発行